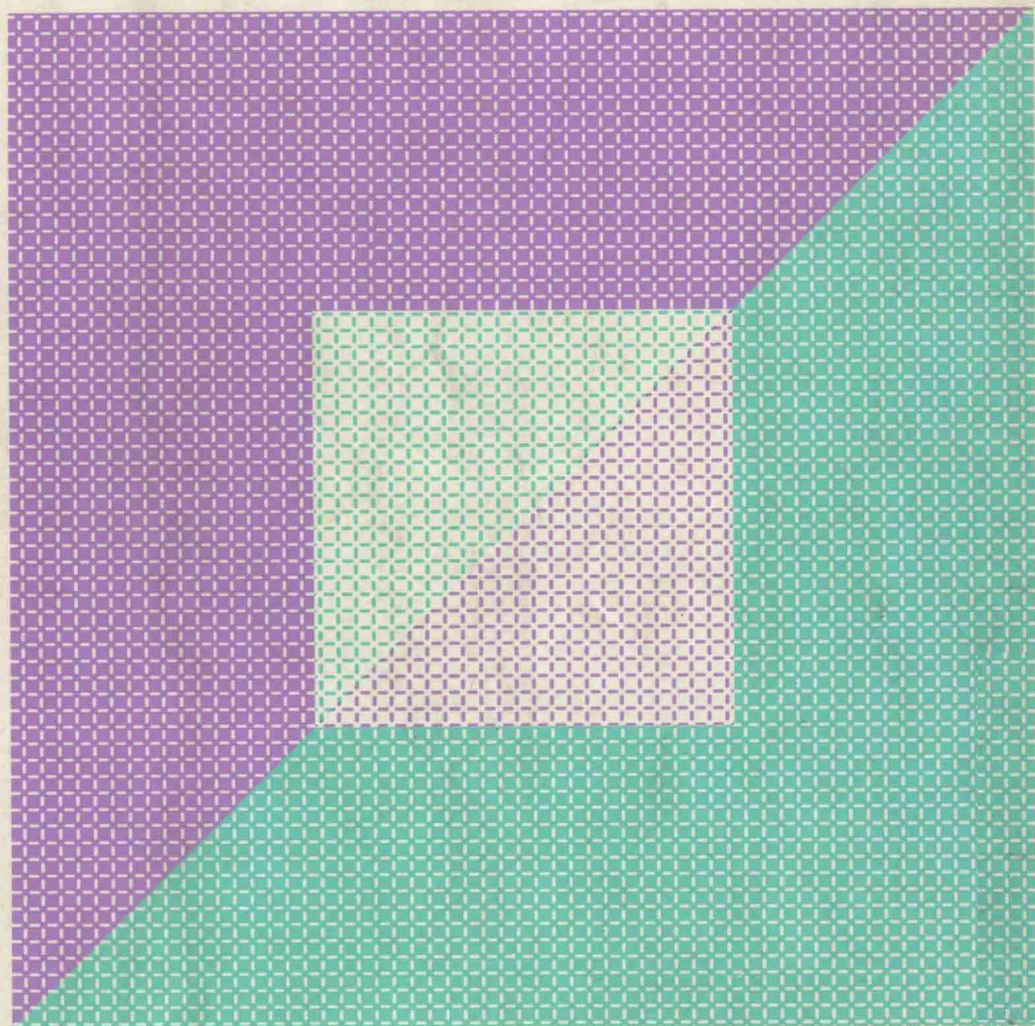


中学生・高校生の意識

受験・校内暴力・親子関係

NHK世論調査部編



中学生・高校生の意識

受験・校内暴力・親子関係

NHK世論調査部編

日本放送出版協会

中学生・高校生の意識
受験・校内暴力・親子関係

昭和59年9月10日 第1刷発行

定価 2,500円

編 者 N H K 世 論 調 査 部

〒105 東京都港区愛宕2-1-1

電 話 (03)433-5211(代表)

発行者 藤 根 井 和 夫

印刷所 亨 有 堂 印 刷 所

製本所 田 中 製 本

発行所 日 本 放 送 出 版 協 会

〒150 東京都渋谷区宇田川町41-1

(振替東京 1-49701)

©1984 NHK

ISBN4-14-008381-6 C0036 ¥2500E

Printed in Japan

目次

一質問ごとの集計結果一

第 1 問 (学年) 省略	
第 2 問 A. 授業で教えられられる中身	11
B. 理解度	11
C. 授業の進み方	12
第 3 問 A. 受験勉強は学んだことをまとめるよい機会か	13
B. 受験勉強は人間をきたえるよい機会か	13
C. 受験勉強は本当の勉強とはいえないか	14
第 4 問 好きな先生	15
第 5 問 好きな先生がいるか	16
第 6 問 担任の先生	17
第 7 問 A. 学校は楽しいか	18
B. 何が一番楽しいか	18
第 8 問 A. 父との同居	19
B. 母との同居	19
第 9 問 A. 父：きびしいか	20
B. 父：理解しているか	20
C. 父：うるさいか	21
D. 父：話すか	21

E. 父：やさしいか	22
F. 父：仕事は生きがいがあるか	22
第10問 A. 母：きびしいか	23
B. 母：理解しているか	23
C. 母：うるさいか	24
D. 母：話すか	24
E. 母：やさしいか	25
F. 母：生活は生きがいがあるか	25
第11問 尊敬する人	26
第12問 悩みごとの相談相手	27
第13問 親友	28
第14問 A. つきあい方：兄弟姉妹	29
B. つきあい方：親友	29
C. つきあい方：普通の友達	30
D. つきあい方：担任の先生	30
E. つきあい方：父	31
F. つきあい方：母	31
第15問 (心に残ったことば) } 省略 (いやなことば)	
第16問 自分でできるもの	32
第17問 A. あきやすいか	33
B. 自分勝手か	33

	C. しりごみするほうが	34
	D. 人を頼りにするほうが	34
第18問	A. 早く大人になりたいか	35
	B. 大人になりたい理由	35
	C. 大人になりたいくない理由	36
第19問	人気がある生徒	37
第20問	A. 自己主張	38
	B. 競争意識	38
	C. 自己犠牲	39
	D. 社会本位	39
第21問	(将来志望) 省略	
第22問	生活の目標	40
第23問	打ちこんでやれること	41
第24問	幸福感	42
第25問	A. 日本はよい社会か	43
	B. 日本の将来	43
	C. 日本が戦争をするか	44
	D. 世界戦争があるか	44
第26問	(かけがえのない大切なもの) } 省略	
第27問	(今, 欲しいもの)	
第28問	A. 好きな異性の有無	45
	B. 告白された経験	45

C. 告白した経験	46
D. ボーイフレンド、ガールフレンドの有無	46
E. 手をつなぐ	47
F. キス	47
第29問	
A. 交換日記や文通	48
B. 未婚の男女関係	48
第30問	
病理現象Ⅰ	
A. 夜眠れない	49
B. 疲れやすい	49
C. 朝、食欲がない	50
D. おなかが痛い	50
E. 肩がこる	51
F. 立ちくらみやめまいがする	51
G. 頭が痛い	52
第31問	
病理現象Ⅱ	
A. 思いきり暴れまわりたい	53
B. 何となく大声をだしたい	53
C. すぐカッとなる	54
D. 何でもないのにイライラする	54
E. 自殺したい	55
F. すぐ不安になる	55
G. なんともなくこわい	56
H. 何かこわいものに追われているような気持ちになる	56
I. 学校へ行く気がしない	57

J. なんとなく淋しい	57
K. 何をしても楽しくない	58
L. 何もやる気がしない	58
M. 何にも興味がもてない	59
N. 何をしても無意味だと感じる	59
第32問 A. 非行の現状	60
B. 非行の経験、欲求	61
第33問 校内暴力の原因	62
第34問 A. 制服の有無	63
B. 服装の管理	63
C. 髪型のきまり有無	64
D. 髪型の管理	64
E. なぐる教師の有無	65
第35問 A. なぐった相手	66
B. なぐりたい相手	67
C. なぐられた相手	68
第36問 信仰、宗教（信心）	69
第37問 A. 幽霊	70
B. UFO	70
第38問 好きな音楽	71
第39問 音楽の好きな程度	72
第40問 高校野球が好きな程度	73

第 41 問	深夜放送聴取	74
第 42 問	部活動：強制か否か	75
第 43 問	A. 部活動：実態	76
	B. 部活動：回数	76
	C. 部活動：平均時間	77
第 44 問	A. 学習塾：実態	78
	B. 学習塾：回数	78
	C. 学習塾：平均時間	79
第 45 問	テレビ視聴時間	80
第 46 問	学校外勉強時間	81
第 47 問	A. 進路希望	82
	B. 入りたいと思っていた高校か	83
第 48 問	進学 of 最終目標	84
第 49 問	通学校の種類	85
第 50 問	学校の成績	86

まえがき

一枚残らずたたき割られた教室の窓ガラス、あるいはメチャクチャに破壊されてしまった家庭の内部——こういったものの写真やテレビ画面を見たことのある人は少なくないと思います。暴力は物だけにとどまらず、先生や親、あるいは仲間の生徒などに向けられ、テレビや新聞でしばしばショッキングな事件が報じられます。先生や子どもたちの御両親をはじめ多くの人たちが、青少年の行動に思い悩み心を痛めています。なぜ、青少年特に中学生・高校生はかくも荒れすさんでいるのか、そういう子ども達にどう接触したらよいのか、何か有効な対策はないのか——こういう問いを非常に多くの方々がいただいていると思われれます。もちろん簡単な処方せんなど誰にも書けるはずはありません。問題の根がとても深いことは、少なからぬ人が肌で感じていることでしょう。大切なことは、暴力をはじめとする子どもたちの言動をそれだけ切り離して問題にするのでなく、学校や家庭のあり方、受験に象徴される競争本位・自己本位的な社会の風潮など、子どもたちを取りかこむ環境にできるだけ広く目を配り、しかもそれを子どもたち自身がどう受けとめているかを知ることです。非行や問題行動とよばれていることは、一部の特殊な生徒だけの問題ではなく、そういう行動をひきおこす基本的な原因となる社会的な力は、ごくふつうの生徒たちにも働いています。海面上に現れている氷山の一角でなく、海面下の氷山の大半の部分、つまり私たちの身近にいて、事件などまずひきおこしそうな子どもたち、そういう子どもたちが親に対し、先生に対し、また、受験に対して抱いている考え方・感じ方、あるいは抑圧された欲求をで

きるだけ偏見なくとらえてみるのが大切です。それが現在の教育をめぐる大きな問題の解決への第一歩でもあれば、また不可欠の事柄でもあると考えられます。

社会的に重要な問題の実態を正しくとらえ、それを多くの人に伝えることは、もとより放送機関に働く者の役目の一つであり、私たちは「中・高校生の生活と意識」という大規模な調査の企画・実施に踏み切りました。調査対象は中・高校生とその御両親合わせて約一万人の方々です（調査の方法や規模などについては巻末の部分を御覧ください）。

調査の結果は、NHK総合テレビの「今あなたは一〇代の心がわかりますか」という番組で放送されましたが、その後さらに突っ込んだ分析を行った成果が本書の内容になります。以下、調査結果の主な点をかいつまんで紹介したいと思います。

校内暴力、家庭内暴力関連では、まず、中・高校生全体の実に三〜四割の子どもが先生になぐられたことがあるという事実にびっくりさせられます。そして大部分の親は学校での体罰の実態を知らないということも調査の結果にはっきり表れています。逆に先生を実際になぐったことのある生徒は１％であり、さらに量的にみて注目されるのは、先生をなぐってやりたいという熾烈な憎悪を感じたことがある生徒が、四人に一人もの割合でいることです。

父親、母親をなぐったことのある子どもは二〜三％、そしてなぐりたいと思ったことのある子どもは、父親に対しては八％、母親に対しては五％の率になります。

中・高校生の肉体と精神の準病理的な状態に着目したのもこの調査の特色の一つですが、「疲れやすい」「夜眠れない」「朝、食欲がない」など、中年のサラリーマンや老人と見まがうようなことを、若い彼らが訴えているのには憂慮を深めないわけにはいきません。そして、彼らの実に半数が、「思いきり暴れまわりたい」と感じるものが少なからずあると、その噴出寸前ともいうべき心理を表白しています。これら肉体と精神の不調を、父親はもちろん母親も——子どもへの過干渉の気味のある母親さえも知らないことが多いということも調

査の数字は教えてくれます。

中・高校生が自分の悩みごとを訴える相手は友達が最も多いのですが、親のほうは、それは母親だろうと——父母ともに——勘違いをしています。生徒と先生とのつながりはかなり弱く、それどころか先生はしばしば生徒の不信の対象にさえなっていることも、調査データが語っていることです。

性意識は親子で大きなギャップがあることが確認されました。そして最後に、現在の中・高校生には、将来の戦争の不安が大きく影をおとしていることをつけ加えておきたいと思います。

この調査の実施にあたって、調査の対象として御協力いただいた中・高校生の皆さんとその御両親、また、日々の活動と経験をお話いただいた中学校や高校の先生方、座談会で率直にその心のうちを語ってくれた生徒の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

NHK世論調査部

部長 露木裕彦

目次

まえがき

第Ⅰ章 校内暴力・非行・問題行動……………9

- 1、日常化した校内暴力 10
- 2、男子高校生の半数以上が非行・問題行動の経験をもつ 12
- 3、生徒の三〇四割が先生になぐられている 13
- 4、先生をなぐりたいという子どもたち 16
- 5、校内暴力の原因は教師という生徒が多い 18
- 6、制服はほぼすべての学校に 20
- 7、うつうつとして楽しまない生徒 21
- 8、中学一年から肉体的不調 23
- 9、半数近くの生徒が「思いきり暴れまわりたい」 25

第Ⅱ章 学校生活……………29

- 1、半数近くの生徒が授業に不満 30
- 2、受験勉強を否定的にみる生徒もかなりいる 32
- 3、愛着をもたれている教師は少なくないが…… 34
- 4、教師とのつながりは弱い 35

第Ⅲ章 親子関係……………53

- 5、教師は尊敬されていない 39
- 6、学校の楽しさと授業・先生 40
- 7、「おちこぼれ」の生徒たち 43
- 8、先生に理解されない子どもたち 44
- 9、親に対しても心を開かない子どもが多い 47
- 10、低い自己評価 47

- 1、家庭の状況 54
- 2、父親・母親の素描 55
- 3、いそがしい父母 56
- 4、親の自画像、子どもの描く父母像 58
- 5、親の理想は「友だち型」 62
- 6、父親は過保護、母親は干渉過剰 66
- 7、親の接し方による子どもの特徴 69
- 8、父母は親子関係に自信 70
- 9、父母で異なる子どもとの話し合いの態度 72
- 10、相半ばする「しつけ」の評価 74
- 11、「しつけ」の評価と中・高校生 82
- 12、親子の対立は「テレビ」「勉強」「ことばづかい」 88
- 13、無視できない家庭内暴力 89

- 14、親子で同じ生き方 91
- 15、親子で異なる生活目標 94
- 16、親と子で異なる性意識 95
- 17、親よりも子どもで多い戦争への不安感 97
- 18、子どものことを知らない親たち 98

第Ⅳ章 親の教育観……………103

- 1、親のとらえた登校時の子どもの気分 104
- 2、学校観 106
- 3、多い「受験勉強」肯定派、しかし批判派も少なくない 107
- 4、「受験勉強」肯定派は 109
- 5、子どもには高学歴を 110
- 6、偏差値による進路指導は、「やむなし」が多数 114
- 7、安定した職業を子どもに期待 116
- 8、教師へのきびしい評価 117
- 9、四人に一人が「教育は荒廃している」 120

第Ⅴ章 中・高校生の幸福感……………121

- 1、学校生活 123
- 2、親子の関係 126

3、生き方	134
4、非行・異性関係	137

集計結果表

執筆	相田 敏彦（NHK放送研究部）	I・II・V
	謝名元慶福（NHK世論調査部）	III・IV

装幀Ⅱ 高須賀優

